

震災・原発事故を伝える

2011.3.11から6年10か月の今



「相馬野馬追太鼓」 会場に響く



出初式 小高神社奉納

未曾有の災害 東日本大震災～
そして 原発事故
自然も人家も 荒れ果てていく
戻りたくても戻れない 帰還困難区域

《自己紹介》

私は長澤利枝です。福島県南相馬市原町区雫という海岸から約2km、原発からは21km圏の地区に住んでいます。

「東日本大震災」遭遇後、長年の環境カウンセラー活動、地域環境保全活動は、被災地の状況を伝えています。取材、ファイル作成は7年になりました。

その1 地震と大津波

2011.3.11 14:26 大地震 南相馬市震度6弱

15:35 大津波到達。津波による死者636人
厳しい寒さと、停電、断水の不安な
夜を明かす



原町区南萱浜集落 がれきが
すべてを覆う



2011年8月虹がかかった
高台の我が家から
2km先は雫海岸

その2 原発事故

- 3.12 15:36 福島第一原子力発電所1号機水素爆発
- 3.14 11:01 福島第一原子力発電所3号機原子炉建屋水素爆発
続く余震、水素爆発事故による混乱
原発事故の影響で、ガソリンや生活物資が供給されない
- 3.15 6:00 福島原子力発電所2号機圧力抑制室付近衝撃音、4号建屋の損失
福島第一原子力発電所から半径20kmの住民に屋内退避指示
- 3.16 5:45 福島原子力発電所4号機北西付近より火災発生
8:34 福島原子力発電所3号機白煙が大噴出
- 3.18～20日 市がバスで集団避難を誘導
爆発以後、住民は各自避難
市は一台につき 燃料10ℓを支給

～原発事故のため
津波の行方不明者の捜索は
打ち切りになった～

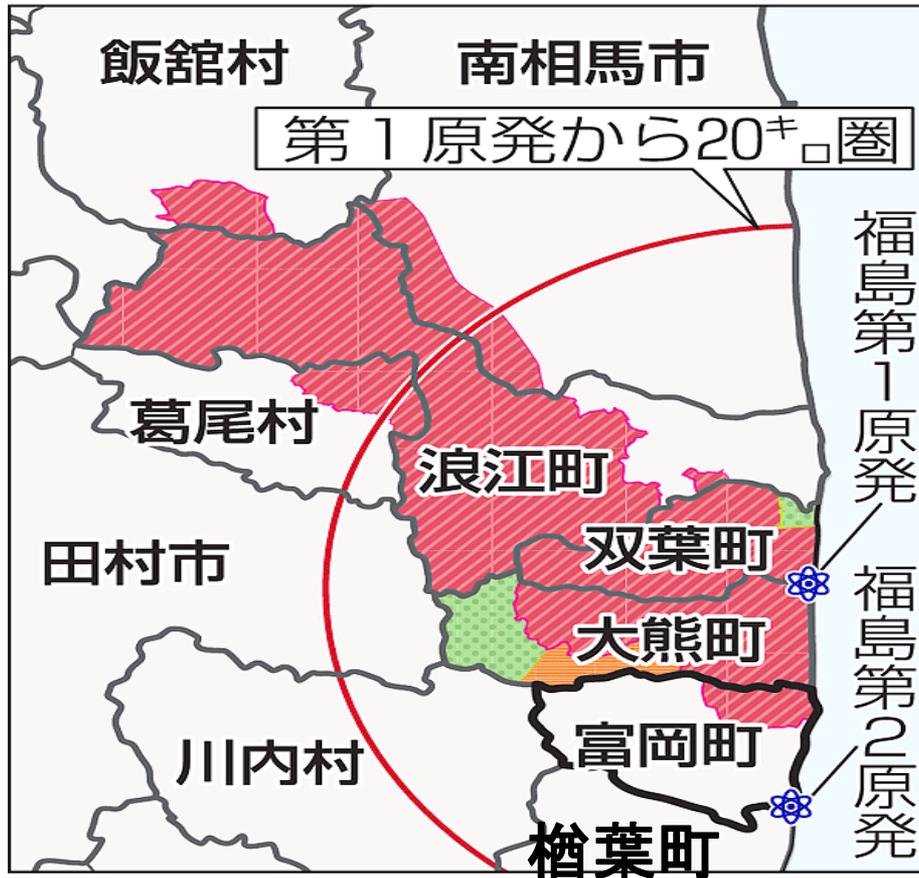


南相馬市立石神第2小学校 避難所

・・・あの日から6年10か月の今

1. 避難指示区域

平成29年4月1日時点



帰還困難区域

居住制限区域

避難指示解除準備区域



双葉町 ジャバラゲートでいまだ通行止め



双葉町 駅前通り側溝上 6.36μSv/h

2. 避難解除後の復旧・復興 その1 20km圏内・原町区雫沿岸



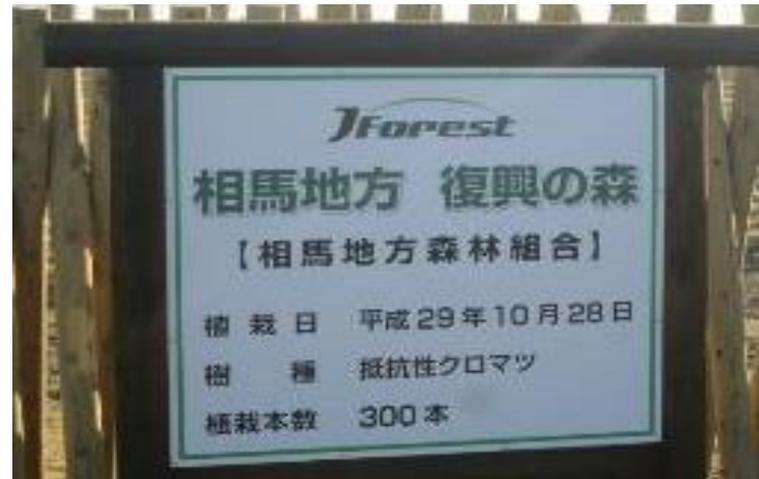
雫地区復旧田圃から初日の出を望む



2018.6.10 開催【全国植樹祭】メイン会場予定地



【植樹祭】準備が進む
木枠内はクロマツ植樹地



【植樹祭】協力業者PR看板設置

その2 小高区沿岸



小高区塚原海岸防潮堤 未整備の箇所あり



村上地区 20km圏内 廃棄物分別処理場



小高区塚原 陥没した農地の整備作業



昨年11月半ば白鳥飛来

その3 浪江町・塩棚地区



津波を免れた海岸林 水素工場予定地



東北電力浪江・小高原発電準備事務所 解体工事



水素工場建設予定図 (福島民報より)



棚塩地区「除染廃棄物仮置き場」拡大

その4 浪江町請戸地区沿岸



災害跡地の整備と請戸小学校



請戸沿岸防潮堤建設



まだまだ防潮堤は繋がらない



早期復興願って 横断幕・完成図



請戸漁港26隻漁船戻る

「浪江町復興は請戸地区から！」の思いは強い。しかし、関連施設建設はまだまだ。試験操業で水揚げされた魚類は、原町区真野漁港に運ぶ。津波跡地は、ほぼ整地された。復興はこれから～

その5 双葉町両竹地区沿岸



両竹地区前田川損壊 復旧手つかず



両竹地区集落 津波はこの家で止まった



双葉町両竹地区 仮置き場 唯一避難解除された地区



解除後 解体がれき搬入始まる

3. 原発事故から6年10か月の現状

その1 避難解除後の各市町村

- ☆ 南相馬市は、原発事故により
20km圏内(小高区、原町区一部)
30km圏内(原町区)
30km圏外(鹿島区) に分断。30km圏外の住民は医療費、高速道路無料の恩恵なし
- ☆ 双葉郡浪江町、富岡町、楡葉町は避難解除。住民の帰還率、楡葉町を除いて5%内
街中は震災当時のまま、インフラ復旧、生活環境は未整備で、住民の帰還を阻む
- ☆ 帰還には 除染廃棄物仮置き場の廃止が必須
- ☆ 避難生活は、世代間を分断した
- ☆ 双葉町、大熊町に帰還促進「特定復興再生拠点」を設置



浪江町駅前通り



浪江町郊外 住宅解体作業工事中

その2 南相馬市小高区 (H28.3.31解除)



県立小高産業技術高等学校開校 朝夕の駅の賑わい



小高小学校校舎に 4校が入る



小高駅前 日中は通りを行き交う人もない



小高駅前広場 ライトアップ 住民の再会の場

帰還率20% 学校再開が家族の帰還を後押しする。生活環境整備が喫緊の課題。
震災前行事が復活し、住民の再会の場になる。生業の商業、農業の復活は厳しい。

その3 浪江町 (H29.4.1解除)



避難解除で浪江町役場再開 復興拠点



商店は当時のまま



国道34号線浪江
避難解除で通行が可能になった



郊外には巨大な「除染仮置き場」



除染廃棄物搬入現場

帰還率 2%
役場周辺 国道6号線沿いは
復旧・復興関係者の出入りで
活気がある。
街中はまだ手つかず。
昨年11月「十日市」再開。
多くの住民でにぎわう。

その4 富岡町 (H28.5.31解除)



富岡町駅 下りは未整備



高架橋仮設工事現場



二次医療を担う県立ふたば医療センター



富岡町ショッピングセンター にぎわう フードフロアー

富岡町では、駅前整備、災害公営住宅、公共施設などの建設が進む。避難解除後の生活環境整備が優先されている。福島第一原発廃炉作業員の休憩・宿泊提供のため、施設建設もある

住民帰還率はわずか2%。
長い避難生活で、戻る選択肢を失った。
解除 帰還困難区域の両方が道路に向かい合っている

その5 「除染廃棄物仮置き場」「中間貯蔵施設」



国道6号線沿い原町区太田地区 仮置き場 浪江町吉沢牧場 除染廃棄物の山 除染後の牧草地に暮らす牛



環境省 除染廃棄物運搬車両

大熊町の中間貯蔵施設に向かう

20km圏内除染廃棄物仮置き場 71か所
除染廃棄物仮置き場 撤去には、2年以上かかる
除染廃棄物輸送 2017年1日あたり300～350台
今後2020年まで最大3,600台

中間貯蔵施設 双葉町・大熊町に設置予定
29年12月末 約775ha 約48.4%
地権者 1,290人と契約

その6 帰還困難区域 双葉町 大熊町 富岡町一部



左側 解除 右側 帰還困難区域



双葉町駅 あの日のまま



すべての家が荒廃



国道6号線大熊町 封鎖が続く



国道6号線大熊町 道路高低で線量変わる

左 高い地点: 3.148 $\mu\text{Sv/h}$ 右 低い地点: 2.186 $\mu\text{Sv/h}$

国道6号線は、復興基幹道路の役目を担う
双葉町、大熊町は国道6号線以外はすべて閉鎖
両町に、「特定復興再生拠点」設置
拠点の中心から除染は始まる
復興を加速するには、浜街道の復旧が急がれる

原発事故から6年10か月、避難生活が長引く中高年には
避難解除を待つ時間がない。
新たな地域に、生活拠点を築いた住民は、戻らない

福島第一原子力発電所廃炉作業は30年以上かかる
次世代に大きなつげをまわすことになった

最後に・・・

福島県では、朝のニュース後「今日の放射線量」が放映される。前日午後5時の測定値である。私たちの一日は、この映像から始まる。原発事故から7年になるが、この光景は変わらない。

罹災調査終了後、仮設住宅から、新築の家や災害公営住宅と、移り住む住民が増えた。期限延長した仮設住宅に住む高齢者もいる。20km圏内、主に浪江町から、南相馬市に移っても住民票は元のまま、これから先が分からないから。

南相馬市は、3つの区域に分断され、ここから住民の苦難が始まった。復興、復旧はこういった状況が解消されてこそ、なしえる？のではないだろうか。



H30年1月18日 双葉郡町村放射線量数値



原町区桜井仮設住宅 高齢者が多く住む



商業施設近くの災害公営住宅